

西区コミュニティ交流協議会視察研修会を開催

1 日 時 平成26年3月14日(金) 8:30~16:00

2 研修会場 岩国市民会館 第四研修室ほか

3 研修日程

【講演】9:40~11:30

(1)「じゃげな会」の活動紹介

講師：じゃげな会 嘉屋会長

(2)「岩国市中通り商店街」の活動紹介

講師：岩国市中通り商店街 藤田副理事長

【視察】12:30~14:50

(3)錦帯橋

(4)岩国錦帯橋空港

4 研修概要

(1)「じゃげな会」 嘉屋会長 講演のテーマは、「人のふれあい、郷土愛、夢を託した町おこし」でパワーポイントを利用して説明。以下は当日のレジュメ

ア. じゃげな会とは？

(まちづくりボランティアグループ)

イ. 活動のキーワード

- 地域に生きる・・・ 歴史の町、観光の町、基地の町の固有の文化
- ウ. きょうど愛に夢をつなぐ～おもてなし～活動風景（パワーポイント）
- 郷土の歴史探索・・・みみずく茶会、吉川サミット、鳥取市との姉妹都市縁組、岩国城記念イベント
吉川会設立、錦帯橋架け替え完成祝、
- 観光イベント・・・4月 城・桜まつり、6月 花菖蒲まつり、11月 国際親善紅葉まつり、1ーフェスタ、食フェスタなど
- 郷土料理・・・次世代に伝承活動、日本郷土寿司交流フェア、テレビ朝日ロケなど
- 国際文化交流・・・岩国基地内の学校での異文化の交流、姉妹都市（エベレット市）交流、友好都市 中国太倉市、杭州市等の交流
- 民間交流・・・宇野千代顕彰会、市民カフェティア活動
- 協働の町づくり参加

エ. 活動を通しての成果は！ 地域での役割分担！ 今後の反省点は！

(2)「岩国市中通り商店街」藤田副理事長 講演のテーマは、「岩国市・中通り商店街の軽トラ新鮮組！」でパワーポイントを利用して説明。以下は当日のレジュメ。



岩国市・中通り商店街の軽トラ新鮮組！

街おこしは里山を使え

1) 現代商店街の元気再生

都市化が進み、交通や情報のインフラが充実すると、近隣都市間で必ずストロー効果が現れる。一方で市内の人口推移は、高齢化社会が進むにつれて都市部へ集中し、中山間部では過疎化が加速。便利な街なか居住は、国策として進められている。



かつての中通り商店街は、周辺の中核地域から買い物客を集める中央型商店街だったが、こうした社会背景の中では、近隣型商店街としての位置づけが必要な時代になった。人が増えて空間があるなら、そこに必要とされるのは、地域住民のコミュニティ。街をどのように使って活性化を図るかが焦点になった。

お祭りや一過性のイベントで地域の人と交流を深めることはできるものの、やはり継続的に、かつ商店街を経済活動の場として捉え、さらに里山の存在に目を向けたとき、「街おこしは里山を使え」というメッセージが見えてきた。

軽トラで生産物を商店街へ運び、商店街の空き店舗前で堂々と商いをしてもらおう。最も手間いらず、金いらずの原始的な手法「軽トラ市」開催の発想に至った。



2) 企画と広報

なすべき事が見えたら、実現するための準備にとりかかる。

里山をとりまとめる「やましろ商工会」へ赴くと、事務局長と意気投合。商工会では参加者に説明をし、商店街では設備や実施時期の内容を検討。大きな山は、実のところ商店街の内部調整にあった。

商店街振興組合という組織は、組合員の賦課金によって経営されている法人。活性化事業とはいえ、商店街の既存店の利益を阻害するような仕組みでは同意が得られない。ていねいな説明と説得で商店街内部での合意形成が鍵になる。

メディアに対するアプローチは、日頃から記者やプロデューサーと接点を持ち、内容が確定する前段階から情報を渡しておくことで、記事の取り扱いの準備をさせておくことも有効。

企画書はダイジェスト版を作成し、内容を追記・修正するごとに更新版を発行。主催者、参加者、支援団体、メディアなどに一斉配布を行い、常に情報を一元化しておく。思い込みによる間違いを排除する対策。



3) 実践「軽トラ新鮮組！」

参加意識がコミュニティをつくる。

2009年12月。第1回「軽トラ新鮮組！」を実施。「まずは始めること」を合い言葉に11台の軽トラが商店街に並んだ。街を歩く人々も歩行者天国のアーケード下に並ぶトラック市に、どう反応して良いか戸惑う光景も見られた。

商店街では、泥だらけの軽トラを素敵な販売台に見せるため、荷台へ吊すためにデザインされた横断幕や、のぼり旗、揃いのエプロンなどを用意。陳列の方法やPOPの書き方、接客の基本などを教えるために、店主が軽トラのもとへかけ寄る。同時に商店街の店々も、急速に増えた人通りを見て店頭ワゴンなどで売り出しを行う。

路上の鍋料理販売に人が群がり、商店街に飛び交う「いらっしゃいませ」や「ありがとうございます」の掛け声は、直接的な賑わいを生み出した。

4) 人と物を覚醒させるのは「事」

「軽トラ新鮮組！」を継続していく過程で、ただ販売を繰り返すだけではマンネリ化が避けられない。そこで商店街では軽トラ市の開催ごとにテーマを決め、新たな魅力発掘を行い、商店街を街のコミュニティ場として活用していくことを実践する。

「ママでも出来ちゃう山菜料理教室」。里山に伝わる昔ながらの料理を商店街で実演し、子育て世代のママ層をターゲットに開催。

「ちびっこ新鮮組」。商店街が引率し、生産農家の現場や体験を行う里山ツアー。我が街の里山を知ることと信頼の絆が深まる。

「新鮮組かわら版」。軽トラ市のメンバーのひとりとなり取材し、市内6万戸に配布するフリーペーパー。宣伝と参加意識の向上に役立つ。

「トラ弁フィージビリティ」。老健施設の開業で急速に変化する駅前地区を舞台にした、弁当ビジネスの可能性調査。

「麻里布酒祭」。軽トラ新鮮組！の食材を地元料理店が調理し、総菜にして販売。あわせて5種の地酒を試飲販売。かかわった全ての人にウィン・ウインの関係が成り立つ、オール岩国のコンセプトが的中した。

人と物を覚醒させるのは「事」。仕掛け一つで、まだまだ道はある。



5) ソーシャルネットワークサービス

広報にはポスターとチラシに加えて、インターネットのホームページ、そしてSNSを活用した。

人繋がりで得た信頼は、どんな安売りチラシよりも人を惹きつける術になる。企画運営に関わる人物像に焦点を当て、その事業の意義や目標を説き、名物人間をつくり出す手法は効果的。軽いフットワークで積んだ経験を活す、広告塔としての役割は小さくない。

6) 課題

商店街活性化は継続的に取り組んでこそ少しずつ効果が現れる。商店街の噂はやがてクチコミになり、関わる人を少しずつ広げ、「街の事」を「私の事」として共有することが元気再生への道程。

しかし商店主には各々の生業があり、手弁当で継続させるには限界がある。運営を続けるためには協議会などを組成し、時流や環境の変化に柔軟な対応をするための、次の時代を担う人材育成が不可欠となる。

なお中通り商店街ホームページには、テレビ取材を含む多数の動画が掲載してあるので、ご興味のある向きは、ぜひご高覧ください。「中通り商店街」で検索。



(3) 錦帯橋視察

「じゃげな会」で説明のあった鳥取市との姉妹都市縁組のきっかけとなった吉川経家の吊魂碑などを視察。

(4) 岩国錦帯橋空港視察

空港ビル副社長による空港の概要の説明を受ける。



岩国～羽田便一日4往復8便。西区からなら広島空港より若干近いことやアクセスの交通費などが安いことなどの利点があり、ぜひ利用してもらいたいとPRされていた。



全ての旅客に優しいユニバーサルデザインターミナルビル。

搭乗、降機を1本の兼用通路としたわかりやすい動線。

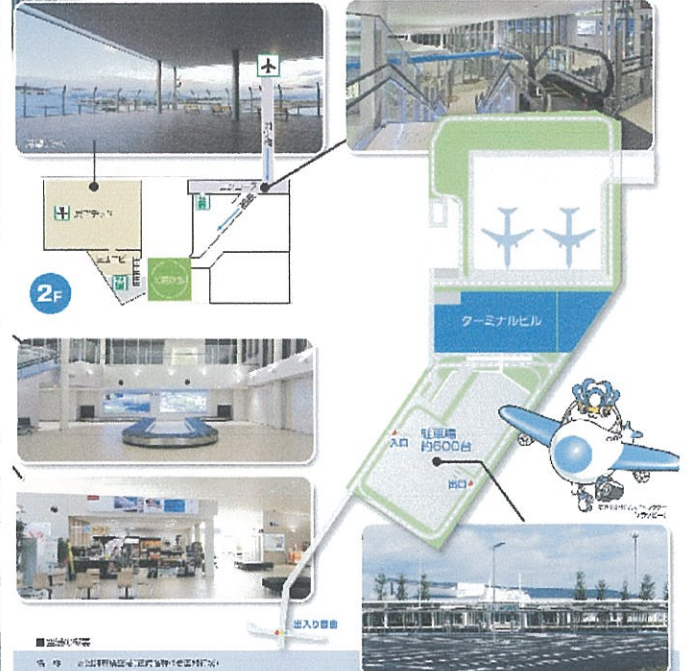
ターミナルビルに入場する際の条件を見逃すことができない、おぼたてです。また、ビル中央には自然光が降り注ぐ安全抜け口はガラス製となっており、眩然している旅客を見ることができ

非常に使いやすいコンクリート製の1階、ガラスは、乗降台の前面に設置の旅客を誘導できます。



民間空港再開までの経緯

- 平成22年 3月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成22年 3月 【民間再建計画】の策定(民間再建計画)の策定
- 平成23年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成24年 2月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成24年 4月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成24年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成25年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成26年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成27年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成28年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成29年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成30年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定
- 平成31年 12月 民間再建計画の策定(民間再建計画)の策定



岩国空港株式会社
 〒740-0292 岩国市西町1丁目1番1号
 TEL: 083-822-1111
 FAX: 083-822-1112
 営業時間: 9:00～17:00
 休館日: 月曜日、年末年始